



与謝野町 第48号 平成30年4月25日発行

# 議会だより

題字：加悦谷高等学校 書道部



4年間ありがとうございました

新年度予算 修正案可決	2
一般質問 ここが聞きたい	4～
第2次総合計画	10
審議経過・総合計画の特徴	

議会だよりが奨励賞受賞	11
町村議会広報全国コンクール	
まちの宝 子どもページ	12
桑飼保育園 岩滝小学校	



# 議員発議による修正案

# 可決 シルクプロジェクト 1000万円 道路新設改良 8400万円

**修正案**

賛成 8 : 反対 7 《可決》

**修正案除く予算**

賛成 10 : 反対 5 《可決》

『①シルクプロジェクトの予算計上は出口戦略が見通せないため、新年度において十分な審議が必要である。②道路新設工事は政策的経費であるため、骨格予算には計上すべきではない。6月定例会において、肉づけ予算として議論すべきである』とし、予備費に計上するものである。反対・賛成討論の後、採決を行い賛成 8、反対 7 で可決した。

一般会計予算は109億4千万円で提案されたが、商工費（シルクプロジェクト事業費補助金）1千万円と土木費（道路新設改良事業費）8400万円を削り、予備費に加える修正案が提出された。

一般会計  
修正案の概要



平成30年度  
会計別予算額

(単位: 万円)

会計別	総額
一般会計	109億4000
特別会計	73億8221
一般会計・特別会計合計(A)	183億2221
水道事業会計	8億9391
収益的収入	8億9391
収益的支出(B)	8億6637
資本的収入	2億4810
資本的支出(C)	4億7467
総合計(A)+(B)+(C)	196億6325

3月定例会は2月28日から3月23日までの24日間で開催した。初日に平成30年度一般会計、水道事業会計など17の会計及び第2次総合計画を含めた30議案について町長より提案説明があった。平成30年度予算については、4月に町長・町議選があるため骨格予算として提案された。常任委員会では所管事項について総務、産建委員会それぞれ3日間、にわたり審議した。本会議では、延べ57人が質疑を行い活発な定例会となった。特に、一般会計予算のシルクプロジェクト（桑の葉栽培・繭の生産）と道の駅問題（企業買収など一連の動き）に質疑が集中した。その後、一般会計予算に対する修正案が議員から提出され賛成多数で可決した。

追加も含めた全32議案中、4議案の賛否が分かれた。このような状況の中で、動議が5件も発議されるなど、波乱含みの議会となった。なお、傍聴者は延べ16人だった。

3月定例会のようす

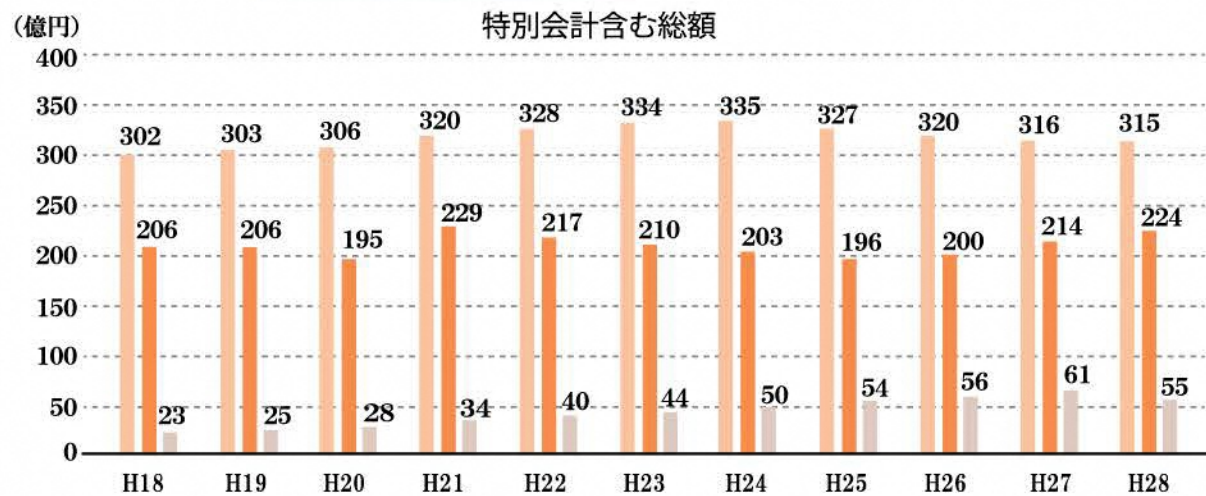
産建委員会それぞれ3日間、にわたり審議した。本会議では、延べ57人が質疑を行い活発な定例会となった。特に、一般会計予算のシルクプロジェクト（桑の葉栽培・繭の生産）と道の駅問題（企業買収など一連の動き）に質疑が集中した。その後、一般会計予算に対する修正案が議員から提出され賛成多数で可決した。

追加も含めた全32議案中、4議案の賛否が分かれた。このような状況の中で、動議が5件も発議されるなど、波乱含みの議会となった。なお、傍聴者は延べ16人だった。

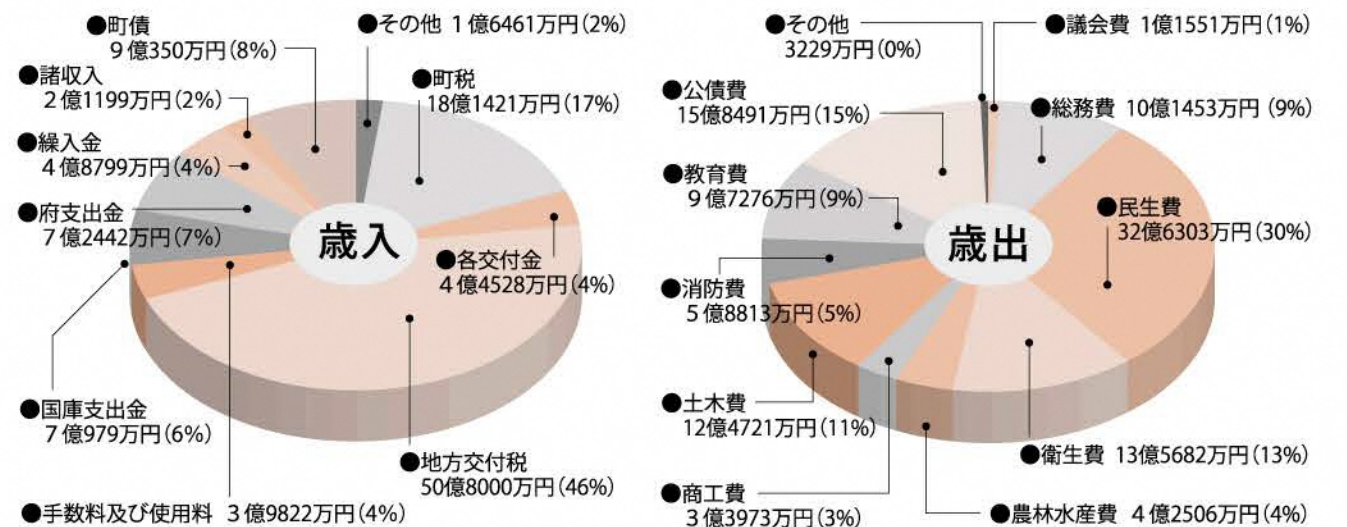
町長・町議選挙 4月執行により  
骨格予算編成

財政状況の推移

■地方債現在高 ■歳出決算額 ■基金残高



一般会計109億4000万円







「一般質問」は、定例会のみ行われるもので、行政全般にわたる議員主導による質問であります。質問を受ける執行機関・理事者側も共に十分な準備が必要なために、事前通告制となっています。

そのほかの議案などに対する「質疑」は、提案された議案に対して疑義を問い質すことです。

※発言順に掲載しています

### Q 介護保険制度の現状と今後は

**A** 家族だけで介護者を支えるのは困難な状況だ

**問** 介護保険制度の現状と今後は。また、町内の現状は。

**町長** サービス利用者は増加している。家族で介護者を支えるのは困難だ。深刻な課題は、介護人材の不足だ。町の状況も国の状況も同じで、大きな岐路にある。

**問** 3年ごとの改定時期となったが、料金やサービス内容の変更点はあるのか。

**町長** 基準額（月額）で5850円が6千円となる。自己負担額の見直しが行われ、一定額以上の所得の方は、3割負担となる。

**人材の確保が困難だ**

**問** 町の高齢者福祉事業の運営状況は。

**町長** 新たな福祉・介護・医療人材の確保が難しい。サービス供給量の増加は困難だ。



高岡伸明



やすらの里

**問** 要介護認定者数の傾向とサービス利用状況は。

**町長** 町の65歳以上の認定率は、国より5%、府より3%上回っている。デイサービス利用者数は3年間横ばいだ。特養の入居者においても同様だ。

**問** デイサービスの破綻が全国的に多いと聞くが。

**町長** 自治体の財政事情があるが、当町は年度当初より、デイサービスは増加している。

### Q D社は「道の駅を運営せず」とは

**A** 行政全体の一致した事項ではない



小牧義昭

**問** D社（※1）はタンゴフロントティアをM&A（※2）したが道の駅を運営せず、阿蘇ベイエリアでカフェショップ・宿泊施設へ投資して、新たな事業展開をしていく。スタートは平成31年春である。町長から担当者6人に「タンゴフロントティアのM&AはD社との約束事項であるため責任をもってやる。未払等で困っている業者もあると聞いているので清算も行う。今の道の駅の施設運営は、リフレッシュなどで考える。絶対事項として平成29年1月19日の内容をもとに早急に進めてほしい」と報告があったと聞いている。副町長はこの件、了知していたのか。

**町長** 何らかの形で責任を取る。責任をとる必要があると思うが。

**旧経営陣に責任はない**

**問** 与謝野町及びタンゴフロントティア代表者双方に対して、D社の代理人弁護士からT社（※3）の登記抹消・損害額の金銭要求の文書が来ていると聞いている。タンゴフロントティアの旧経営陣には何の責任もない。町長自身が責任をとる必要があると思うが。

- （※1）D社とは（株）DAISHI-ZEN
- （※2）M&Aとは企業買収
- （※3）T社とは（株）TAGAYA ASU

**副町長** 全く承知していない。

**問** この内容は行政全体の統一的決定事項だったのか。

**副町長** 行政全体の一致した事項ではない。



どうする道の駅

### Q ブランド戦略コンセプトみえるまち

**A** 産業振興につながる動きを前進できた



塩見 晋

**問** 昨年中止になったシンポジウムでは、田子學氏の講演が予定されていたが、今回はなかった。出席者からも田子氏の「た」の字も出なかった。

**町長** 案内はしたが不参加の理由は知らない。来られなかったのは町長との信頼関係がなくなったからでは。コンセプトの「みえるまち」は誰が作ったのか。

**町長** 与謝野ブランド戦略の体系は、田子學氏の大きな関与と多くの方の参画でできた。



みえる日はいつになる

**問** 27年5月に就任の、与謝野町ブランド戦略クリエイティブディレクターは今も続いているのか。

**町長** 現在は設置をしていない。

**問** 29年度も委託料を予算化していたが、なぜ契約を見送ったのか。田子學氏不在の与謝野ブランド戦略は骨が抜けたも同然だ。

**町長** 2カ年で大きな方向性を示す事ができ、4つの施策方針を取りまとめられた。29年度以降はその方針に基づき、事業者による実質的な推進がなされるべきと考えた。

**問** ブランド戦略に関わる実践者の方々の発表は事例の成果のみで、財源の部分が示されていない。

**町長** この事業の原資は地方創生の交付金で、産業振興につながる動きができた。事業費の発表は今後の参考にしたい。



### Q 第2次町の総合計画の策定は

**A** 町の最上位計画であり町民と意見交換が重要



安達種雄

**問** 平成26年より山添町長の指揮の下、町づくりが展開されてきた。そのなかで昨年11月配布された第2次総合計画策定進捗報告の中に、●住民、職員との総合計画への理解が充分でなかった。●計画策定後、実現するための仕組みが確定されていたとはいえず、社会変化に計画内容が更新されておらず陳腐化となっている。などと今日までに留意すべき問題点がある。町長の所見は。

**町長** 平成23年自治法改正に伴い、市町村の基本構想策定の義務化が撤廃され、策定が市町村自らの判断となった。本町では平成24年「町づくりの中長期的な方針は必要」とし「与謝野町総合計画条例」を制定し、総合計画が町の最上位計画であることを明確にした。議員指摘のとおり、住民や職員が内容をしっかり理解し、総合計

画に基づき町づくりを進める仕組みが充分でない点もあった。第2次計画の策定にあたり、この課題を解決することが必須と考え、策定プロセスを見直し策定後の運用を想定しまとめた。

**問** 延べ2千人の声を基に、1年半かけてワーキングチームで仕上げた重い計画をどう進めるのか。

**町長** 社会情勢の変化に対応して、行政評価と予算編成とのリンクの形と、何より町民の理解が重要。



未来を語るワーキングチーム（職員）

### Q 教育はまず教職員の余裕作りが必要

**A** 現状把握をして改善も視野に入れ整える



家城 功

**問** 参与を迎えて新たな教育の準備を進めているが、その中身は。

**教育長** 参与には町の教育現状を知っていただき、新学習要領に向けた教示をいただいている。また今年に入ってから、教育改革案の提言や教育のあり方についての意見交換も行なっている。

**問** いじめ防止基本方針が策定されたが、どんな取り組みがされたのか。また現状は改善されたのか。

**教育長** いじめに関し、情報交換やいじめ調査などを強化してきた。子どもたちの意識強化を図る取り組みも行い、対策



に努めている。いじめの数は着実に減少している。

**問** 加悦地区の小学校再編計画が示されたが、野田川地区の先行きは不透明。校舎の耐用年数をはじめ、トイレ改修やエアコン設置なども含め再検討をすべきでは。

**教育長** 何よりも、子どもたちにとって、より良い教育環境はどうかあるべきかを考えていく必要はあると認識している。

**問** 新たな教育もいじめ対策も、現場の先生方に余裕がないと進められない。与えられる仕事が多すぎて、子どもたちと接する、話す、見つめる時間もないと聞いている。

**教育長** 同感であり、まず現状把握をしっかり行い、改善も視野にいれ、職場環境を整える。

### Q 町民の命と財産を守る防災対策を

**A** 集中豪雨が浸水被害に及ぼす影響は甚大



和田裕之

**問** 防災とは「災害」の発生メカニズムを明らかにし、人命および財産の安全を図ることを目的として、対策を行うことである。「災害」を未然に防ぐために行われる取り組みであり、被害抑止だけでなく、被害の拡大を防ぐ「被害軽減」、被災からの「復旧」まで含める場合もある。暴風・豪雨・洪水・高潮・地震・津波など、繰り返される大きな被害は、日本が「災害多発国」である事実を突き付けている。これまでの災害から教訓を引き出し、あらゆる事態に備えることが最も重要である。昨年の台風18号および21号では、当町でも大きな被害が



町の防災訓練（加悦中学校）炊き出し

発生をした。従来の経験や発想にとらわれず、警報の出し方、避難の仕方、被災者支援、ハード面だけでなく、住民の要望をしっかりと受けとめ、地域ぐるみで迅速に対応できるきめ細やかな防災の仕組みづくりが急がれる。町民の命と財産を守ることを最優先にする国、自治体の役割が、ますます重要ではないか。

**町長** 短時間の集中豪雨が浸水被害に及ぼす影響が甚大であることを改めて認識した。ハード面での整備だけでなく、命を守る行動がとれるよう、避難所や情報の速やかな発信に努めたい。

### Q 学校統廃合後に衰退しない地域を

**A** 地域住民に不安を与えないよう進めたい



今田博文

学校の跡地利用は

**問** 桑飼小の跡地利用は決まっている。一方与謝小は決まっていない。不公平や格差が出ないように努力するのが行政だ。

**町長** 桑飼小学校は要望が出ているため見通しが立った。不安を与えないよう議論を進めたい。

今後の教育はどうなる

**問** 新学習指導要領は平成32年度から完全実施されるが、内容は。

**教育長** これまでの一方型授業から双方型授業へ移行し、覚える授業から考える授業へ転換していく。

**問** 地域コミュニティへの影響はどう考えるのか。

**教育長** 一歩危惧することは、若年世帯の転出や自治組織の活動が縮小することだ。統合に対する合意形成は重要な部分だ。地域と行政の信頼関係の基盤を区長に合意のありようを相談したい。

地域への配慮を



桑飼小学校



### Q がん対策の推進強化の取り組みは

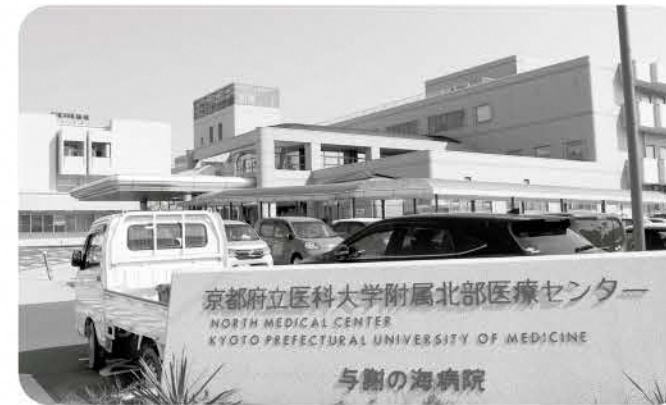
A 受診率向上対策を積極的に推進している



河邊新太郎

**問** がんは府民の死亡原因の第1位で、毎年約7千人以上の方が亡くなる。がんにかかる割合は、男性が5割以上、女性が4割と言われている。厚生労働省は受診奨励の手段として、コールリコールが有効であると言っている。コールリコールとは、個別受診奨励券を郵送しても受診しない人に、個別に再度手紙や電話をかけて受診を促している。当町のコールリコールの実施状況は。

**町長** コールリコールとしては、国保の特定健診未受診者対策に併せ、がん検診の未受診者の受診勧奨も実施している。



期待されるがん治療

**問** がん教育を現場でどのように認識し、どの程度行われているのか。

**町長** 小学校6年生では「生活習慣病の予防」や「喫煙の害と健康」について1時間程度、がんの学習をしている。有害鳥獣対策の取組は

**問** 有害鳥獣による農作物の被害状況は。

**町長** 平成26年は680万円、27年は520万円、28年は510万円と、減少傾向である。

### Q 第2次行政改革の取組と効果は

A 目標に届かない。今後は民間活力も導入する



多田正成

**問** 行革実施計画に基づきどこまで実施し、また効果が出せたのか。

**町長** 財政健全化では目標額を一定積立ができた。

**問** 事務事業の見直しなどはできているのか。

**町長** 京都工芸繊維大学との連携で、公共施設等総合管理計画・実施計画を策定することができた。

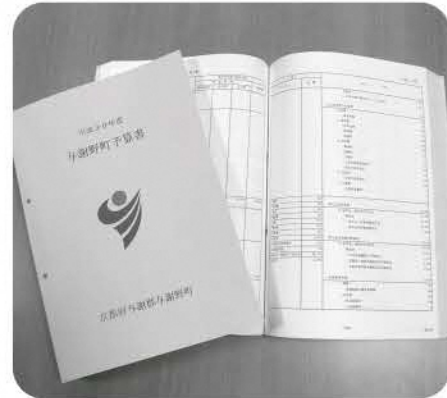
**問** 組織運営と職員の適正化はできているのか。

**町長** 5年間で14名削減する目標だったが、再任用制度もあり、目標通りとなっていない。

**問** 行革が進んでいない。第1次・2次で10年の計画ではなかったのか。

**企財課長** 今後は行政業務のアウトソーシングが必要になる。

**問** 当然だ。何年も前から指摘、提案している。



**町長** 財政運営の効率化を図るため、今後は民間活力の導入を考える。

**問** 財政難と予算編成の考え方は。

**町長** 財政状況を改善し、持続可能な財政基盤の確立のため行革が必須だ。

**問** 現在29年度会計だが、年度末減額補正が多すぎる。当初予算編成が疑問だ。もっと町民の負担に配慮される予算編成ができるはずだ。

**企財課長** 歳入少額予算・歳出増額予算は現行行政運営では当然と思うが、今後はもう少しシビアに予算編成を考える。

### Q 低所得層に十分な支援を

A 関係機関と連携し支援を継続していく



伊藤幸男

**問** 格差と貧困が広がる中で、生活保護を「不正受給だらけ」のように、制度や受給者を攻撃するバッシングを繰り返す、制度の切り捨てを進めている。保護基準は、住民税非課税限度額、就学援助、最低賃金、国保介護の負担減免などの基準とも連動し、暮らしを支える制度である。この間、全国で、保護申請を門前払いされた人が餓死・孤立死に追い込まれる事件等が相次いでいる。生活保護は、憲法が明記した生存権を守る「最後の砦」である。①私たちが提案



**問** 格差と貧困が広がる中で、生活保護を「不正受給だらけ」のように、制度や受給者を攻撃するバッシングを繰り返す、制度の切り捨てを進めている。保護基準は、住民税非課税限度額、就学援助、最低賃金、国保介護の負担減免などの基準とも連動し、暮らしを支える制度である。この間、全国で、保護申請を門前払いされた人が餓死・孤立死に追い込まれる事件等が相次いでいる。生活保護は、憲法が明記した生存権を守る「最後の砦」である。①私たちが提案

**町長** ①改善によって認定者が増えている。困窮層の経済負担の軽減ができた。②住民税非課税世帯は、この3年間でみると、ほぼ横ばいで推移。③従来から低所得層への負担軽減はしてきた。今後も関係機関と連携し、生活困窮者への支援をしていく。

**問** 就学援助の支給基準が改善されたが、②町の低所得層の現状は。③低所得層の推移と現状は。

### Q 人生100年時代を見据えた構想は

A 生き方・暮らし方に多様性を活かした社会を



江原英樹

**問** 町の人口構成の現状と課題は。

**町長** 人口減少と少子高齢化への対応は待ったなしである。

**問** 人生100年時代の諸施策は。

**町長** 健康長寿が大きい。



**問** 事であり、「健康」「働き方」「学び直し」等に係る取組が必要である。

**問** 世代間に一体感が醸成されたか。

**町長** 世代に関係なく、みんなでの経験に学び、よいまち、地域を作っていくことを目指す。

**問** 超スマート社会の実現は。

**町長** ICTを活用した農業物流システムの可能性を求めている。

**問** 地方創生戦略の妥当性は。

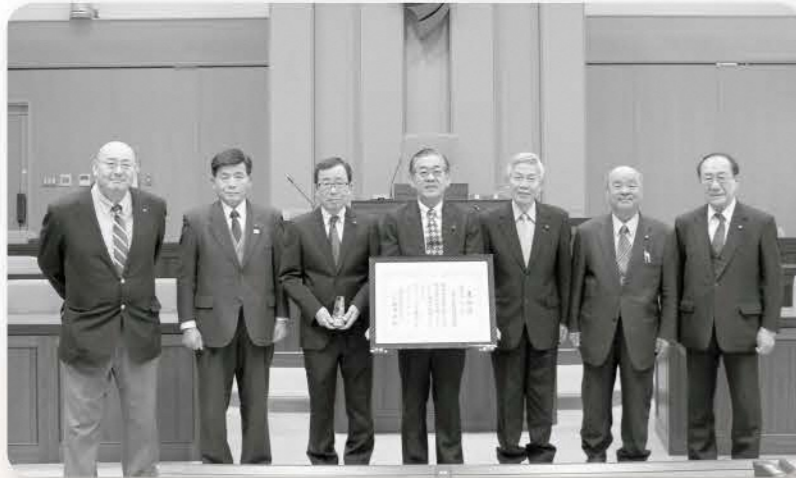
**町長** これまでの事業の進捗や成果を見ると、その芽が出ており、進むべき方向性は間違っていない。近い将来、花が咲き、きつと実を結ぶものと期待する。

9 ※ 原稿はすべて本人が提出しています。



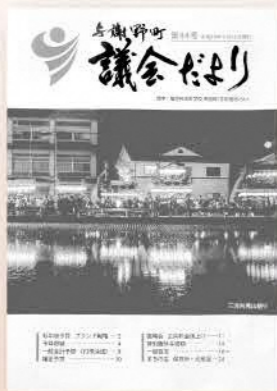
与謝野町 議会だより

第32回町村議会広報『奨励賞』を受賞  
全国コンクールで



■「与謝野町議会だより第44号」(昨年3月定期議会号24頁)が、平成30年2月に行なわれた第32回町村議会広報全国コンクールで、「奨励賞」を受賞しました。この全国表彰は、旧町時代も含め、なかったことです。

■審査委員からの一言講評では「企画と編集技術の両面で水準の高い議会報」と評価された。



表彰を受けた「議会だより 第44号」



奨励賞トロフィー



言語・文章部門表彰状

議案に対する賛否一覧

賛否の分かれた議案のみ掲載  
○印は賛成 ×印は反対 退印は退席 (議長は賛否同数の時のみ態度を表明し、議案の成否を決定します)

議案	審議案件	議員名	賛成	反対	有吉	高岡	河邊	小牧	安達	江原	和田	伊藤	藤田	宮崎	渡邊	多田	今田	家城	塩見
4号	第2次 総合計画策定 委員会付託動議		11	4	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○
	第2次 総合計画の基本構想及び基本構想の策定		12	2	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	退	○	×
10号	介護保険条例一部改正		14	1	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21号	平成30年度一般会計予算の修正案		8	7	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成30年度一般会計予算		10	5	○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
25号	平成30年度介護保険特別会計予算		14	1	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

人・自然・伝統 第2次総合計画  
与謝野で織りなす新たな未来



みらい会議の分科会での協議の様子

- “まちづくり基本理念” 3つの「み」
- みんな** 与謝野町に暮らす「みんな」の手でまちづくりを推進
  - みらい** 将来世代のために「みらい」を見据えた未来志向のまちづくりを推進
  - みえる** まちづくりの主人公であるみんな(住民)にとって「みえる」まちづくりを推進

審議経過と計画の特徴

緊急動議で委員会付託へ

(審議経過) 3月議会の初日に提案された総合計画の議案は、全協で説明を受け、13日に本会議で審議に入った。しかし、十分な審議が必要などの理由で委員会付託の動議が出された。

①動議に対する反対討論では、この議案は住民と共有のものだ。委員会付託でなく本会議で議論すべきだ。

②賛成討論では、重要な議案であり、選挙を目前に控え拙速すぎる。もっと議論を深めるべきだ。などの意見表明があり採決の結果11・4で委員会付託となった。付託された総務委員会では2日(3/19、20日)にわたり審議し、全会一致で原案の通り可決した。

本会議で審議可決  
本会議では、委員長報告

「未来志向」で作った第2次計画

第2次総合計画は、平成28年度から1年半をかけて、目の前の課題だけでなく、2040年の社会を意識し、これからは描くなど、フューチャー・デザインにより「未来志向」で策定を進めてきた。ものです。

- に対する質疑のち討論を行った。
- ①反対討論では、新年度に議論するものを町長の意向で3月になった。
  - 重要な議案であり審議時間が短い。
  - ②賛成討論では、住民の思いが詰まっている。尊重すべきだ。
  - 審議時間が短い充実発展を願う。
  - などの意見表明があり、採決の結果12・2で可決した。





## 桑飼保育園の紹介

恵まれた自然の中にある桑飼保育園は、0歳児から5歳児までの子どもたちが元気に通園しています。

春、古墳公園の満開の桜の下でみんなともだちになったことを喜び一緒に遊びます。小さいともだちと手をつないでザリガニやおたまじゃくしを採りにいきます。

夏には、蝉とりに奮闘します。夏の終わりには、園庭で遊ぶ子どもたちの周りにいっぱい赤とんぼが飛び交い、バッタやカマキリも多く、図鑑で調べ観察して教え合っています。

秋、慈徳院のもみじはとてもきれいで、何度も散歩に出かけます。

冬は、力を合わせてかまくらや雪だるまを作り楽しんでいます。



一年を通して自然に親しみのびのびと遊び、笑顔があふれ心豊かで思いやりのある子どもに育つ保育園をめざしています。



本校では、学校・保護者・地域が協力して、子どもたちの安心安全を守る取組をしています。

「岩滝こどもの安心安全を守るネットワーク会議」では、スクールガードリーダー・防犯推進委員・婦人会・更生保護女性会・防災安全課・宮津警察署・教育委員会・PTA役員と学校が一丸となり、子どもたちの通学の実態について意見を交流し合い、見守り活動を継続しています。

また、PTAでは、毎年地区を決めて、「こども110番のいえ」を親子で見つける楽しいウォークラリーを実施しています。



その他にも、毎月8日を「安全の日」とし「あいさつ運動」を、学期末には全保護者による見守り活動「岩滝パトレンジャー」を実施しています。

これらの活動により、子どもたちの安全安心が守られています。ありがとうございます。

## 岩滝小学校の紹介

